

第5回福井県嶺北地域公共交通活性化協議会

日 時：令和5年11月27日（月）10：00～11：30

場 所：福井県国際交流会館 3階 特別会議室

1 開会

2 あいさつ

福井県 藤丸未来創造部長

3 議事

（1）嶺北地域公共交通計画（案）について

- ・事務局より資料説明

<質疑応答>

三寺委員

- ・資料1の方向性でカーボンニュートラルのことが記載されているため、施策案の中にDXと合わせてGXについての記載があると良い。

事務局

- ・交通GXに関しても資料1の施策2－3および資料2のP24以降に記載させて頂いた。

福井鉄道

- ・資料1の方向性や資料2のP21において、バスへの行政支援を実施と記載されているように、路線バスを維持していくための十分な行政支援をお願いしたい。バスの運転士が足りない中でも路線バスを欠便にしないために、収益性が高い貸切部門の人員などを路線バスに割いて継続している。民間事業者としてはこのような状況を継続できないため、赤字を全額補填いただくことをお願いしたい。
- ・資料2の目標値について、地域幹線系統の人口当たり年間利用回数をコロナ前の水準まで戻すと記載されているが、利用者数については現状でコロナ禍前の7割程度に留まっているため、今後どのように戻す想定かをお聞きしたい。目標については全国的な動向を踏まえて設定しているとのことであったが、県や市町ごとに地域の事情が異なる。人口の多い

ところはコロナ禍前に戻すことはできるかもしれないが、福井県では高い目標設定に感じる。

事務局

- ・一つ目の行政支援に関しては、現行のスキームで赤字路線への支援を継続させていただくほか、人材確保や利用促進についても支援をさせて頂く。
- ・二つ目の利用者数の目標に関しては、人口減少の局面にある中での目標となるため、人口当たりの利用回数で算出することとしている。ご意見いただいたように高い目標であることは承知しているが、北陸新幹線開業というプラスの要因もあるので、目標として設定し達成に向けて各施策を進めていきたい。

福井鉄道

- ・行政による財政支援も底なしではないと思うので、計画期間内は今の路線バスを全部維持するというだけではなく、乗降者数が少ないところは再編なども視野に入れて検討していく必要がある。

福井運輸支局

- ・計画の内容について特に異論はない。調整いただき感謝申し上げます。
- ・1つコメントを申し上げると、2024年問題が差し迫っており、広域バス路線も市町内バス路線も他の物流業界と同じく人手不足の状況にあるかと思う。計画案にも人材確保や路線の検証、ルートの見直しなどを記載いただいているので、追い込まれたあとに対策を練るのではなく、時間軸を考えながらデータに基づいて事業者と行政がコミュニケーションを取って進めていってほしい。計画期間内でも柔軟かつ必要な見直しを行いながら、前向きに進めていただければと思う。

事務局

- ・路線バス網の見直しについては資料2のP21に「広域バス路線の利用状況の継続的な検証、運行ルート見直しやハブ機能の強化等による改善」として記載させていただいた。交通系ICカードの導入による利用促進を行いながら、利用状況を加味した効率的な運行について市町や事業者と協議し広域的なバス路線網を維持していきたい。また、これから事業者、国、県、市町で集まって地域ごとに協議する場を設ける予定であり、そのような場を活用して意見交換を行っていきたい。

川本会長

- ・目標値については、達成が容易な目標ではなく少し高めの目標を設定した方が実効性のある計画となり良いかと思う。また、目標については固定的に決めてしまうのではなく、状況の変化に合わせて適宜見直していくことが可能である。

えちぜん鉄道

- ・計画案は前回の指摘事項も反映いただき良くまとまっている。利用者の目標値についても新幹線が開業するということで、新たな需要が見込めればと思う。
- ・一方で、担い手不足は現実的に大きな問題である。運転士の確保を個々の事業者で対応するのではなく、5か年計画の中で嶺北地域全体として取り組んでいくことが必要である。
- ・計画案にも十分記載いただいているとおり、インバウンドが徐々に回復傾向にあるので、多言語対応や駅に降り立ったときの案内表示が十分なのか検証する必要がある。社内でもプロジェクトチームを作っており、駅周辺の公共施設や飲食店の案内および多言語対応について優先度を付けながら取り組んでいく必要があると考えている。まだ福井県のインバウンドはそこまで多くないが、金沢には多く訪れているようなので、その流れで福井県に来る人に対応できるよう準備を進めていけると良い。

観光連盟

- ・インバウンドに関連して、観光案内所では13カ国語通訳対応の映像システムの導入を検討しているところである。インバウンドアドバイザーが飲食店や宿泊施設などに必要に応じてアドバイスを行っているので、ご要望があればお申し付け頂ければと思う。

川本会長

- ・インバウンドについては県民にも周知し、県全体で取り組んでいけると良い。市町の方からご意見はあるか。

福井市

- ・福井市も計画の目的を達成できるよう協議会の一員として役割を果たしていきたい。本市でも今年度地域公共交通計画の策定を予定しており、自動運転やEV車両導入支援、移動時間を楽しめる仕掛け作りなどの項目を盛り込むことを検討している。県や交通事業者と連携して市の計画も進めていきたいと思うのでご協力をお願いしたい。

福井県

- ・観光客目線での案内は非常に重要である。まずは新幹線4駅の案内を優先的に整備する必要がある、ハピラインふくいへの乗換えなどのわかりやすい案内などをJRと協力して実施していきたい。その際には市町の関わりも重要であり、観光客のスムーズな誘導のために3者が協力して多言語化やサインを整えていく必要がある。
- ・資料1の施策6-2に案内機能の強化と記載させていただいているように、人による案内のみでは限界があるので、必要な案内言語など全体的なデザインを検討しながら、まずは案内サインで誘導し、足りないところは観光案内所等で対応していく、といった複合的な案内機能を充実させていけると良い。

観光誘客課

- ・県でも多言語化への対応を進めている。市町でも観光部門で予算を持って頂き、事業者とも連携してインバウンドへの対応を進めていければと思う。

川本会長

- ・インバウンドについてはしっかりとデータをとって分析することも重要になるので、今後データに基づき戦略的に進めていければと思う。DX化の話も出たが、スムーズな案内が重要であるため、皆様のノウハウを活用・共有しながら進めていけると良い。

三寺委員

- ・資料1の二次交通の充実や楽しめる仕掛けづくりという前向きな方向性を、方向性1の持続可能な交通ネットワークにうまく繋げていけると良い。
- ・公共交通については各市町で社会実験等を実施し検証をされているかと思うので、そのような動きを各市町が地域の方々にしっかりと情報発信をして、公共交通への理解を深めてもらうことが重要である。
- ・これからパブリックコメントを実施するにあたり、県民に分かりやすいように用語集を加えていただければと思う。

事務局

- ・施策の方向性については、他県と違う要因として新幹線開業の効果が見込まれるため、人口減少を観光客の増などでカバーできるよう進めていきたい。
- ・パブリックコメントの実施にあたっては、分かりにくい用語について解説を記載するなど検討させていただく。

ハピラインふくい

- ・新幹線開業にあたり3月16日に当社も開業するという事で、あらためて当社の意気込みを述べさせていただく。今回の計画は目標値を掲げ具体的な施策を実施していくものとしており、ハピラインふくいとしても1日2万人の利用を目標に掲げているので、個々の施策を着実に実施して目標の達成に繋げたい。
- ・当社は福井市を核に南北の交通を支える役割を担っている。県民目線が重要だと考えている一方で、県外からの来県者も多くいらっしゃるので、情報案内やトータルデザインの充実についても関係事業者とよく連携しながら進めていきたい。
- ・資料3のアンケート結果では、鉄道への改善要望として運行便数の増便があげられている。当社としては、通勤・通学の時間帯の快速列車を含めた増便や日中の時間帯の1時間に2本以上の増便など、積極的な増便・ダイヤ調整を行いたいと考えている。1日102本から126本を目標に、本数を対前年比124%としたい。I Rいしかわ鉄道は対前年比107%、あいの風とやま鉄道は対前年比118%の増便なので、他県と比べても積極的な増便を行う予定である。
- ・敦賀駅での新幹線との乗継利便性の向上や、最終便の繰り下げ、交通系ICカードとして当社オリジナルICOCAの作成を行っている。また、リアルタイムで運行状況を確認できる環境も整備している。国・県・市町に協力いただきながら、新駅の設置なども引き続き重点をおいて実施していく。
- ・駅へのアクセス向上策として、P & Rの整備拡充も効果的と考えているほか、駅の賑わい創出として駅舎の空きスペースの活用も考えている。J Rから移管して地域密着型の地域に愛される鉄道となるよう事業を進めていきたい。

川本会長

- ・鉄道の役割を果たすべく県民目線で取り組まれようとしているご発言であった。他の地方に比べて福井県は鉄道網が充実しているのが特徴であり、バスとの連携やまちづくりとの関連なども取り込める土壤があると思うため、前向きに進めていければと思う。

京福バス・バス協会

- ・人手不足の問題については厳しい状況だと感じている。これまでも地域貢献や利便性向上のためにダイヤ改正を行ってきたが、2024年問題が目前に迫っている中で乗務員不足を埋めるために、貸切バスや高速バスの人員を路線バスに割いてなんとか維持している。

2024年問題は労働時間を制限する法制度であり、給与水準が確保できないとないことでバス運転士の離職者が増えることを危惧している。お客様目線のダイヤ設定はもちろん重要であるが、働き手に配慮したダイヤ設定についてもご理解をいただければと思う。

- ・バス運転士の採用に関しては、朝晩のダイヤが過密なので、その時間帯に対応できる人材を確保することが最も重要である。若い人材も重要であるが、高齢の方でも短時間でいいので働くことができないか、公務員のOBに向けてメニューを作成する等働きかけを進めている。市町職員の退職者向けの採用促進などもご検討いただきたい。
- ・デマンド化については、運行時間が日中や平日に限られていることも多く、乗務員にとっては働きやすい仕事になっている。女性ドライバーによる乗務も進んでいるため、そのような交通体系への移行についてもご検討いただきたい。

事務局

- ・人材確保については前回の協議会でもご議論いただいております、書きぶりを充実させて計画案に反映させていただいた。人材確保が重要であることは共通認識であり、採用活動についての専門家への相談や勤務条件の改善等も施策として記載させていただいている。女性・若者が働きやすい職場環境の整備や退職した公務員の採用も重要な視点かと思うので、各市町においてもご協力いただきたい。
- ・ダイヤについても計画に記載させていただいたように、限られた資源の中でどのように効率的に支援をしていけるか、個別に協議を進めていければと思う。

川本会長

- ・事業者なしには公共交通は動かないので、離職が生じない会社づくりは重要である。給与や働きやすい勤務環境を整備し、やりがいのある職場の形成を目指すことが求められている。一朝一夕には進まないと思うが、大きなテーマとしてサポートできることはしていく必要がある。観光需要の増加が見込まれる中で、利用者ニーズと事業者サービスがトレードオフの状況になっているので、5年間の状況に応じて臨機応変に動くことが求められるだろう。

福井県

- ・岩本委員から重要なご意見をいただいた。利用者目線でのサービス拡充も大事だが、公共交通を維持していくためには働き手のことも行政として考えて行く必要がある。単に路線バスを維持していただくだけではなく、事業者にとっても事業が成り立つような効率的な仕組みを考えていく必要である。キャッシュレス化に伴い、データがリアルタイムで取得でき

る環境になるため、E B P Mでの施策が検討しやすくなるだろう。また、公共交通の関係者や働き手に対しての尊敬の念を持つことも重要であると考えている。

川本会長

- ・その他ご意見がないようなので、本日の計画案でパブリックコメントを実施させていただければと思う。
- ・12月にパブリックコメントを実施、1月に計画策定というスケジュール感で進めていく。細かい文言修正などは事務局で対応し、私のほうで代表して確認させていただきたいが問題ないか。

(異議なし)

川本会長

- ・それでは、事務局にて手続きを進めてほしい。

5 閉会